

## 【基盤研究(S)】 人文社会系(人文学)



### 研究課題名 アジアにおける持続可能な土地利用の形成に向けて

北海道教育大学・教育学部・教授 **ひみやま ゆきお**  
**氷見山 幸夫**

研究分野：環境地理学、土地利用、地球環境変化、地球人間圏科学

キーワード：アジア、土地利用、陸域、GLP、LUCC

#### 【研究の背景・目的】

日本学術会議は2008年7月に提言『陸域－縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生へ向けて』を公表しました。本研究はその実現の一端を担うため、陸域の利用、即ち土地利用に焦点を当て、提言の3本の柱である地球情報基盤の整備、分野横断的研究の推進、政策の推進と教育の充実を緊密に連動させた総合的研究をアジア、特にロシア極東、インド、中国、日本について行います。

本研究の目標は、自然と人間の共生が崩れつつある地球環境危機の時代の、制約的条件下における土地利用の在り方とそれに至る道筋を提示することと、土地利用に関連する地球環境・災害問題や食糧問題の解決に役立つ知見とアトラス等の資料を社会に提供することです。そこでGLP(国際陸域研究計画)およびIGU-LUCC(国際地理学連合土地利用・土地被覆変化研究委員会)と緊密に連携します。エコロジカル・フットプリントなどの総合的持続可能性指標を導入・改善することにより、土地資源的観点からの諸地域の実態の定量的理解と問題解決への貢献を、確かなものにします。

#### 【研究の方法】

アジアの長期的な(概ね100年、特に近代化と経済成長に伴う)土地利用変化の実態とメカニズムおよび関連する諸問題を正確かつ広域的に把握するため、



図1 中国西部の砂漠化の様子。森林が砂漠に飲み込まれ、それを食い止めるための試みが見られます。

土地利用図、衛星画像、GPS等を駆使した広域現地調査を実施します。また新旧の各種地図類・統計等の情報データベース化と、それらを含む地理的土地利用情報ベースの開発と分析を進めます。それらを地域間比較の枠組みの中で行うことによりアジアという広域の理解に結びつけ、アジアの土地利用変化に関連する環境・災害問題や食料問題等の解決に向けた提案を目指します。

#### 【期待される成果と意義】

**出版** Atlas - Land Use/Cover Change in Asia (仮称)を刊行します。このアトラスには土地利用変化とそれに関する多くの地図、情報、研究成果を網羅します。その他、土地利用科学の立場から持続可能な社会に向けた出版活動を行います。

**集会** IGU-LUCCと連携してアジア各地および国内でシンポジウムを主催・後援し、このプロジェクトの研究成果の発信と普及および広範な研究者の交流とネットワーク化を図ります。

**アウトリーチ** 日本学術会議の関連委員会、特に地球人間圏分科会およびGLP小委員会と連携し、前記の提言の具体化と地球環境に関する新たな提言の取りまとめに貢献します。また研究成果の社会への還元、とりわけ教育への反映に努めます。

#### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

Himiyama, Y. *et al.* eds. (2005) *Understanding Land-use and Land-cover Change in Global and Regional Context*, Science Publishers.

氷見山幸夫(2009) 21世紀の土地利用を考えよう。  
日本地球惑星科学連合ニュースレター, Vol.5 No.2, 1-3.

#### 【研究期間と研究経費】

平成21年度－25年度

70,700千円

ホームページ等

himiyama@asa.hokkyodai.ac.jp